



●三重支社
津市栄町4の255
津栄町三交ビル 3階
電話 059(228)2545
FAX 059(271)6311

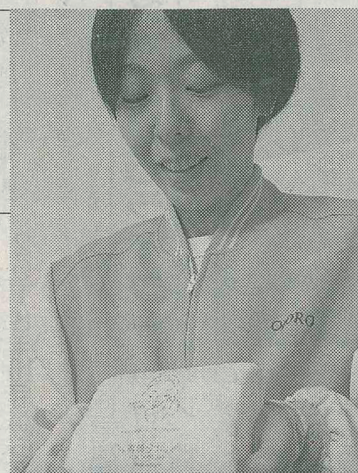
●四日市支局
四日市市中浜田町4の16
ロイヤルマンションHAMADA 208号
電話 059(354)6116
FAX 059(329)5333

洗顔後専用タオル開発

糸の太さ「ふわふわ」感を実現
4分の1

老舗タオルメーカーのおぼろタオル(本社津市上浜町、加藤勘次社長、電話059・227・3281)は、洗顔後に利用する専用タオル「専顔(せんがん)タオル」を開発した。通常のタオルに使う糸の4分の1の細さという極細綿糸「80単糸」で織ることなどで、ふわふわ感を実現した。今後、さまざまな展示会などに出席し提案する。(津)

おぼろタオル



肌に優しいタオル
「専顔タオル」

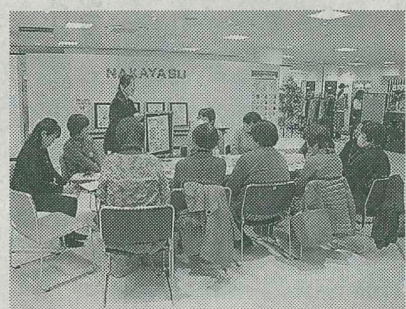
専顔タオルは、朝や夜の肌の手入れを念頭に洗顔後に利用する用途に絞り込んで開発した。サイズは縦32センチ、横60センチ。価格は千円(税別)。

特に吸水性に優れている。「肌に当てるだけで水を吸ってしまふ」(森田社長)。

取締役営業部長 感覚で、女性の敏感な肌に合うように工夫した。大阪府立産業総合研究所で行った試験で

3S活動に基づく「整理整頓」を伝授
中易鉄工所がイベント

【四日市】半導体製造装置部品などを製造販売する中易鉄工所(本社四日市市)は15日、四日市市諏訪栄町の近鉄百貨店四日市店で、整理整頓に関するイベント「自分を大切にできるお片付け」を開催した。



イベントでは、中易鉄工所の中易泰代氏ら4人が講師を務め、一人一人のライフスタイルや性格に合ったお片付け、収納の方法を解説した。

中易氏は「当社で取り組んでいる3S(整理・整頓・清掃)活動で培った知見も伝授している。地域貢献の一助になれば」と話していた。

一人一人に合ったお片付けや収納の方法を解説した。

浅田井村屋グループ会長と田代バローHDD会長兼社長 埼玉県はこのほど、優れた企業活動と社会貢献活動を行う経営者を表彰する「第17回沢沢栄一賞」の受賞者を選出した。2月4日に、さいたま市で表彰式を開く。

浅田氏は、社長就任直後の浅田剛夫会長(76)、バローホールディングスの田代正美会長兼社長(71)ら3人を選出した。2月4日に、さいたま市で表彰式を開く。

新春インタビュー

古い町並みや食、豊かな自然などで、国内外の観光客から支持を集める飛騨高山。昨年は災害の影響を受けたものの、海外からの誘客は好調を維持。ホテルの建設ラッシュなど、変化にも直面する。高山の今後の誘客戦略などについて、飛騨・高山観光コンベンション協会の堀泰則会長に聞いた。

—2018年を振り返って。

「豪雨をはじめ災害が多く、JR高山線の不通や停電などの影響で、日本人を含めた入り込み観光客数は前年比で減少した。交通や安心・安全の重要性が身に染みた1年だった。外国人観光客への緊急情報の伝達にも課題を感じた。現在、外国人向けには市の公衆WiFi(ワイファイ)経由で情報を配信しているが、スマートフォンに一斉配信できる体制の整備を市と協議している」

—19年以降、どのような観光地づくりを行うのか。

「利便性の良さをアピールし、より長く滞在してもらう観光地を目指す。23年ごろに中部縦貫自動車道の未開通区間が開業すれば、高山から福井市や福井県永平寺町まで約1時間半で結ばれる。福井のほか富山や金沢などを訪れる人にも、高山を滞在拠点としてもらいたい」と話す。

飛騨・高山観光コンベンション協会会長 堀 泰則氏

(ほり・やすのり)



「体験型コンテンツの充実を図る」と話す堀会長

とだ。既にこれを見越して、高山を紹介する海外向けリーフレットの19年版から、広域的な情報PRを拡充している。

—近年減少傾向にある、日本人観光客については。

「日本人観光客は人口減などで絶対数は増えない。そこで、滞在日数を伸ばし、リピート客を増やせるよう、体験型コンテンツを充実させる。といっても全く新しいものを作るばかりではなく、既存コンテンツの情報を集約し、例えば地元の

高齢者にガイドをしてもらうといった形で磨き上げを図りたい」

—高山ではホテルの建設ラッシュに加え、ゲストハウスなども増加している。

「ホテルは今後約2年間で、千室程度の客室が増加する見込みだ。対抗して、既存ホテルでもリニューアルの動きが活発化している。外資系高級ホテルの計画もあり、高山を訪れる客層の拡大が期待される」

「ゲストハウスは営業実態がつかみにくく、連携が取れていない。当協会など観光関連団体では、会費などを出合って誘客・宣伝活動を行い、高山を観光地として仕上げてきた。将来の高山経済を考える上でも、連携と活動への協力を働き掛けたい」

広域観光拠点化で長期滞在を

自律走行ロボ 来庁者を誘導

大垣市 全国で初
自律走行し担当課の窓口まで誘導したり、申請書の

書き方を教えてくれたりするロボットの実証実験が15日、大垣市役所で始まった。市によると、自律走行型のロボットが来庁者を誘導する試みは全国の自治体で初めてとしている。

小川敏市長が「ロボットを使い市民サービスを向上し、市民の集う面白い市役所を目指したい」とあいさつ。その後、自律走行型の

工知能(AI)を活用した「電子市役所」の構築を進めており、昨年11月にロボット開発などを手掛ける6社と連携協定を締結。2020年に開庁予定の新庁舎で実用化を目指す。

ロボットは5種類計9台で、自律走行型はタッチパネルで行きたい課を押すと窓口まで誘導。証明書の交付コーナーのロボットは申請書の記載方法を音声で案内する。またキッズスペースのロボットは子どもたちと簡単な



●岐阜支社
岐阜市柳ヶ瀬通 1-12
岐阜中ビル8階
電話 058(266)7576
FAX 058(262)6571

●東濃支局
多治見市上野町 1-75
日映マンション III602
電話、FAX兼用 0572(23)7812

●西濃支局
大垣市室本町2の39竹中ビル203号
電話、FAX兼用 0584(75)1289



市役所で自律走行型ロボットから誘導を受ける小川市長(手前)

またキッズスペースのロボットは子どもたちと簡単な

大垣市議会